

初の発表会

1年生 バイオ基礎実験プレゼンテーション

1年前期の「バイオ基礎実験」では、7月3日に発表会を行いました。学生は、これまで実験してきた4つのテーマから発表する内容を1つ選び、事前に要旨を出す。この要旨は4年生の卒業研究や学会発表と同じ形式で作成します。発表当日は、パワーポイントで5分間の口頭発表と質疑応答を行いました。「今年の1年生の発表は例年になく良い!!」というのが教員の審査評で、このまま後期での自主テーマ実験Iでも力を発揮して欲しいと思います。本学科では各学年、いろいろなプレゼンテーションを用意しています。先輩の発表会にも積極的に参加して、プレゼン能力を磨いてください。



一段と成長3年生!

自主テーマ実験・ポスター発表会を開催

3年生の自主テーマ実験IIが終了し、7月10日にポスター発表会が開催されました。本発表会は公開で行っておりまして、今年度は日刊工業新聞において事前に告知記事も掲載されました。そのためか、小宮学長をはじめ学内の教職員の方々だけでなく、学外の大学関係者・企業の方々(東工大生命理工学研究所、シジジ化粧品(株)、日本微生物クリニック(株)、TAMA協会など)の多数の参加者があり、暑い中での盛大な発表会となりました。学生一人ひとりの発表に対し活発な質疑応答が行われ、彼らが1年生だった時の発表と比べると一段と成長し、たくましくなってきました。学科長質問:「何故このような実験条件を選んだのですか?」;発表者:「実験がしやすかったからです!」;学科長:「うーん!?!」。中にはこんなやり取りもありましたが・・・。

応用バイオ科学科で行っている「自主テーマ実験・ポスター発表会」では、本学の教育目標である「考え、行動する人材育成」に対応して、「自ら創造する力」や「プレゼンテーション能力」等の向上を目指しています。学科としては、より実りのある『創造性豊かな教育』を推進していきますが、学生諸君もこれまで培ってきた経験をバネにして、卒業研究・就職活動に向け、さらにステップアップしてほしいと思います。夕方、企業の方々も列席したクラス会で盛り上がりました。

■最優秀ポスター賞(グループ)

G8 岩倉幸太郎、白井あすか、永沼雄次、錦織京介
G20 菅原瑞穂、鈴木諒、吉本晃輔、岩下高大

■優秀ポスター賞(グループ)

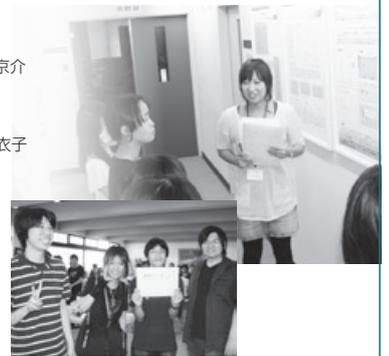
G1 秋山洋平、阿部浩二郎、関根由佳、高杉麻衣子
G2 朝倉亮祐、綾部壮、高橋章夫、高橋邦彰
G7 今水理博、宇佐美哲哉、富田和寿、長崎潤
G11 川崎雄太、菅野正也、原昭司、藤本陸
G14 北村良太、木村大介、松本亮、水内友博

■最優秀ポスター賞(個人)

池田美可、菅原瑞穂

■優秀ポスター賞(個人)

朝倉亮祐、白井あすか、倉本いつみ



卒業研究スタート

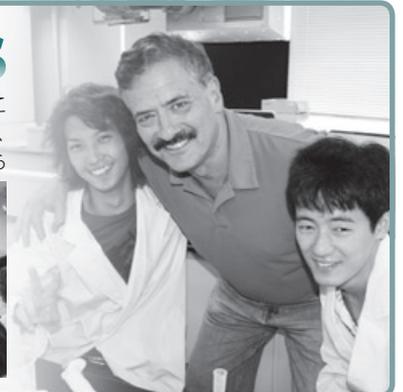
一卒業研究中間発表会開催

7月31日に、応用バイオ科学科の卒業研究中間発表会を開催しました。今回はポスター発表会という形で行いました。本学科がスタートして4年目。一期生はこれまでの間、学生実験の度に口頭発表会やポスター発表会、動画での発表と様々な形でプレゼンテーション能力を鍛えられてきた甲斐があっただけで、まだ正直、実験が進んでいないにも関わらず、各自の研究テーマをうまくポスターにまとめ、説明を行っていました。当日は学科内外の教員をはじめ、多くの後輩たちもポスターセッションに参加してくれていました。



Workshop for KAIT students

定期試験直後の8月4日から7日まで、夏休みを一部返上して19名もの学生が、英語で行うバイオの実験に取り組みました。これは、協定校のサウスシアトル・コミュニティカレッジから講師を招き、英語で実験を行う本学科の新しいカリキュラムの一つで、一種の学内留学プログラムです。テキストはすべて英語、板書も英語。履修した学生は、英語の講義と実験の説明に戸惑いながらも、電子辞書を引き、澤井准教授の翻訳にも助けられ、普段とは全く違うバイオの実験を楽しんでいました。履修者の中には、昨年・一昨年に1ヶ月の海外留学をしたりビーター組の学生、この9月から半年留学する学生も履修し、また、TAには半年留学の学生に手伝ってもらおうなど、合計7名の海外研修組が参加し、海外研修プログラムが浸透していることを実感しました。



理数科の高校生への特別授業

7月2日、秋田県立由利高等学校にて、小池あゆみ准教授が理数科の2年生と3年生に特別授業を行いました。高校で習う理科の先にあるものをイメージして欲しいと、生物化学・遺伝子工学・バイオテクノロジー分野の最先端の話題を織り交ぜながら、大学の講義形式(合計2時間30分)で行う授業です。高校生の皆さんの目はキラキラとしていて、時折大きく頷きながら熱心に聞いてくださいました。高校で習っている「化学」「生物」「物理」というそれぞれの分野は決して別々のものではなく、やがて融合していくのだということを感じてもらえたらと思います。



准教授3名の国際学会 in Kobe

8月12日から14日の三日間、神戸ポートピアホテルで開催された第5回オセアニア膜学会で、市村重俊准教授、飯田泰広准教授、澤井淳准教授の3名が発表を行いました。この国際学会は、日本をはじめ、中国、韓国、台湾、オーストラリアなどのアジア・オセアニア地域の人工膜と生体膜の研究者が集まるものです。世界的な水問題に関心が集まっていることもあり今回は400名以上の多数の参加者がありました。参加した3名ですが、学生実験の発表指導をしながらの準備、しかも学期末ということで神戸滞在数時間という強行スケジュールもありましたが、国内外の参加者の質問にも真剣に対応し無事終了しました。

本学科一期生の卒業研究が始まって半年ほど経ち、来年には学生の国際会議デビューもあるのではないかと思います。非常に楽しみです。組織委員としてポスター発表の採点や座長を行った市村准教授は「本学科の学生は国際学会での“学生賞”も十分狙えるのではないかと思います。」と期待を述べました。